

ISSUE NO. 19 • SPECIAL EDITION '23

# HAMA WAVE

# Book Journal

讀書感想文



# CONTENT

# PAGE

<b>Note from the Editor ようこそ</b>	<b>2-</b>
<b>CIRが今読んでいる本</b>	<b>4-</b>
<b>「人間失格」 太宰治</b>	<b>5-</b>
<b>「母が死んで良かった」 Jennette McCurdy</b>	<b>8-</b>
<b>「頭が良くなる思考術」 白取晴彦</b>	<b>9-</b>
<b>「アキレウスの歌」 Madeline Miller</b>	<b>11-</b>
<b>「国境の南、太陽の西」 村上春樹</b>	<b>12-</b>
<b>Closing</b>	<b>14-</b>



2023年1月20日

親愛なる読み手の皆様、

明けましておめでとうございます。本年が幸多き一年となりますよう心からお祈りいたします。新年に向けて、私たちは「もっと読書することを心掛ける」という新年の抱負を決めました。読書は語彙力を強化できる方法だけではなく、視野を広げる方法でもあります。読書を通じて、日常生活でめったに遭遇しない考え方と概念を芸術的に取り組むことができるのです。ということで、過去に読んだ本を振り返って、自分の感想を書くことにしました。皆さんも気に入った本を読んでいただき、感想を教えてくださいましたら幸いです。

Dearest readers,

Happy New Year!

We hope this one will bring great things for you all.

Entering this new year, we both made it our New Year's Resolutions to actively try and read more books. Reading books is a great way to expand not only your vocabulary but also your mind. It forces us to think outside the box and artistically engage with ideas and concepts that we might not typically encounter in our daily life. So in the spirit of reading, we have decided to reflect and write our thoughts and feelings on some of the books we have most recently read. If any of the books strike your fancy, please do give them a read and let us know what you think!

**With Love**

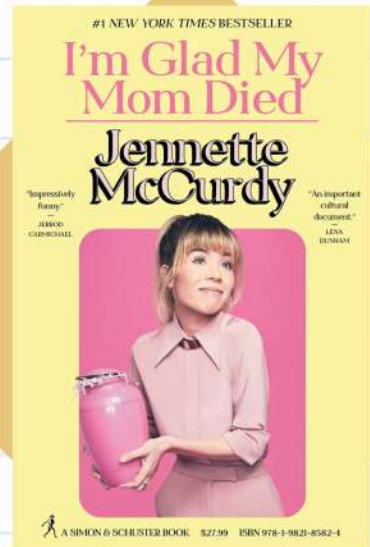
elGrace  
★

JOEL  
♡

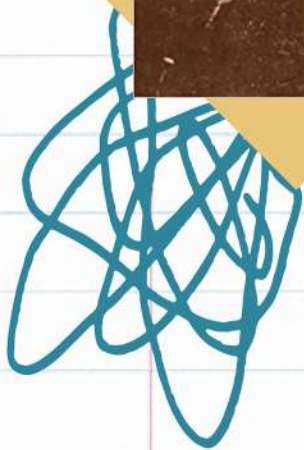
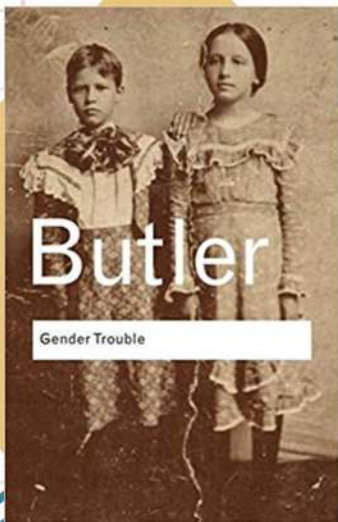


ジョエル Joel

グレイス Grace



CIR  
今何を  
読んでいる?





# 人間失格

「人間、失格。もはや、自分は、完全に、人間で無くなりました。」

日本語を勉強し始める前からずっと、日本文学に好意を抱いてまし

日本語が分からないまま、英訳された小説を読み漁りました。

ジャンル、小説家に関わらずとりあえず日本文学を読みました。吉本バナナ、大川洋子、川上広美、桐野夏生、芥川龍之介、大江健三郎、村上春樹。最後に辿り着いたのは太宰治氏でした。ダブリン市の街中

読んだ  
理由：

で  
ぶらぶらして、たまたま本屋さんに入ってみたら「Japanese Greats」(日本の文豪)という本棚が目の前に並びました。日本国内でよく知られている著者は残念ながら英訳されていないことが多く、もしくは訳されていても海外ではまだよく知られていないという傾向があるので、あまり期待せずに瞥見してみました。もしかしたら、今まで読んだことのない作者の傑作が並んでいるかもしれないと思って、いつもお世話になった相棒のような本がありました。でもあれ…これはだれですか、この「Osamu Dazai」とは思わず手に入れてしまいました。「Setting Sun - 斜陽」が艶々しているフォントで書かれていました。面白かったので、一気に読み込み次から次へ小説を探してしまいました。それは10年前のことですが、いつか、きっと原語を読もうと早急な勉強を始めたのを思い出して、あるいは読んだことがなくても聞いたことがある本だと思います。この小説では大庭葉蔵の生涯を追います。葉蔵は年を取ると共に自分のことを意識しつつ、どんどん疎外感になれ、強引なお父さんの存在を含めて、苦しみや恐怖しか知らない子供でした。苦悩から逃れるため葉蔵は「道化」を演じることにしました。その結果、葉蔵はクラスの人気者になり、女性にモテるようになりましたが、終わりのない絶望的な舞台で役割を演じている感覚を覚えるようになります。

あらすじ：

『このような人生を迷っていいですか？このような存在は人間に値しますか？』等と周りの人に気に入られようとして、あるいは嫌われることを恐れて「本当の自分」とは違うキャラクターを演じてしまう態度、いわば「空気を読む」ことは、誰でもしてしまいます。葉蔵みたいに、自分の性格や自分へ悩みや疑問を抱いてしまうことは古今東西に通ずることで、誰でも憐憫または同情できる感情だと思います。

女、酒、薬におぼれても、快楽主義というより、葉蔵はその悪習で時に人生に小さな幸せを感じていました。しかしながら、その悪習は葉蔵を人生の低層へ落とすしめ、「人間失格」と言い生涯をとじてしまいます。

「人間失格」と締めくくった人生を読んでいく物語からは、葉蔵が死ぬまでに思い至った感情や人生への暗い見方を覗くことができます。





# 人間失格



## 概要：

タイトル	人間失格
著者	太宰治 (本名：津島修治)
出版社	新潮社
発表年	1948年
ジャンル	中編小説、半自伝、フィクション



## 感想：

自分よりずっと上手い書き手が解釈文を丁寧に書いてくださいましたので、解釈に触れないよう、感想だけを述べていきます。

葉蔵は幼い頃から自分を人間以外のものとみなし、日常の感情や欲求から完全に切り離れており、空腹を感じる事ができないとさえ主張して、共感や喜び、悲しみといった感覚を持たず、他人の真意に疑問をもっています。葉蔵は絶対主義しか理解できないほど、完全に他の人間から分離しています。人間は絶対主義に従わず、矛盾した行動をとることが多いので、葉蔵は人間を理解できず、怯えています。ある程度、誰もが理解できる感情ではないでしょうか。

「こう生きても本当にいいのでしょうか」、「周りの方はどう思っている？私のことを認識している？我々の考えが違いすぎたら釣り合わないかな。大丈夫かな」といった悩み事はきっと誰にでもあったと思います。他の人間を怯えている葉蔵の気持ちは他人のことを考えすぎることから発生したと言えるでしょう。

しかしそもそも、人間とは何者でしょうか。葉蔵の人間の定義にはそもそも欠陥があると思います。人間とは均質な一つのモノではなく、違いがあるからこそ人間です。葉蔵は人間からずれたモノではありません。読者の立場からすると、葉蔵の方向音痴で筋もない、終わりもない省等感まみれの物語はそれほど、人間っぽくはないのでしょうか。

葉蔵の人生そのもの以外の具体的な筋書きは特にないので、本小説はフィクションを読んでいる感覚が個人的にしません。しかも、信頼できない語り手から出来事が語られていますから、葉蔵の証言としてあまりにも信用ができません。周りのキャラクターの意見を聞いたなら、この推測を裏付けられます。

最後に「人間失格」は悲劇であると定義付けられるかどうかは議論になっただけなく、私もその余地があると思います。結末は特に悲劇的でもインパクトがあるわけでもなく、「人間失格」は転落の底辺から始まり、さらに暗闇に足を踏み入れていくのです。



# 人間失格



Accept what come

## 好きな名言：

人間の本质について：  
「エゴイストになりきって、しかもそれを当然の事と確信し、いちども自分を疑った事が無いんじゃないか？ それなら、楽だ、しかし、人間というものは、皆そんなもので、またそれで満点なのではないかしら、わからない、……」

## 苦しみについて：

「自分には、禍いのかたまりが十個あって、その中の一個でも、隣人が背負ったら、その一個だけでも十分に隣人の生命取りになるのではあるまいかと、思った事さえありました。つまり、わからないのです。隣人の苦しみの性質、程度が、まるで見当つかないのです。」

## 愛について：

「人に好かれる事は知っていても、人を愛する能力に於いては欠けているところがあるようでした。(もっとも、自分は、世の中人間にだって、果たして、「愛」の能力があるのかどうか、たいへん疑問に思っています。)」

## どんな人に おすすめ：

アルコール依存症、モルヒネ中毒、性的暴力、鬱病、自殺、心中等々の深刻なテーマに携わる小説のため、重いテーマに敏感な方に勧めることはあまりできません。太宰氏の作品(「走れメロス」を除き)はどれも暗くて、人間のありかたや社会を批判するものです。太宰氏は無頼派として認められたり、反権威的行動で虚無的な偏りがあり、楽観的な小説を読みたがる人でしたら、「人間失格」をお控えください。

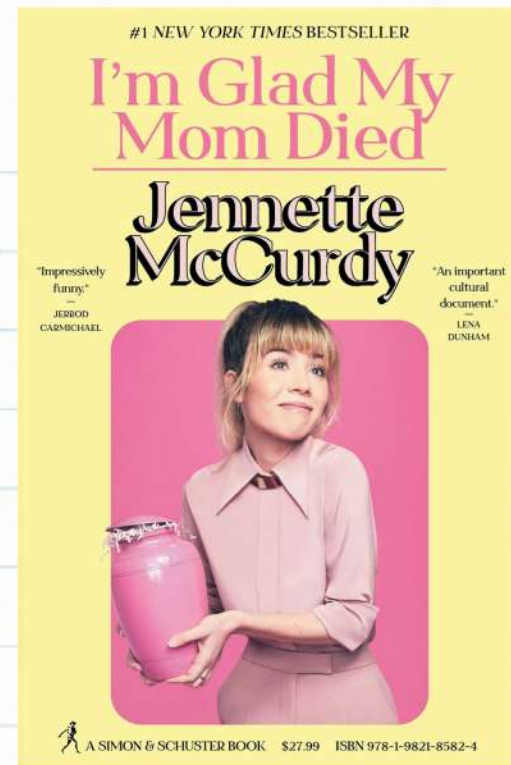
そのかわり、青春時代にいる方、自分への疑問を抱く方、精神的に強い方、又は鬱々を感じたことのある方におすすめします。太宰氏のように悲観的な人生観を持つ文章は、読む価値があると強く思います。

最後ですが、既に分かっているかもしれませんが、本小説は楽観的で読みやすい小説ではありません。鬱病、不安障害等の苦しみや苦悩が書かれていて、よく遺書だと言われてます。それを踏まえて読むかどうかを検討してください。





# I'm Glad My Mom Died



「母が死んでよかった」ジェネット・マッカーディ

Wow!

世の中の進む道に横たわるありとあらゆる困難から守り抜いてくれるはずの人が、逆に最大の困難になったらどうすればいいのでしょうか。自身が叶えられなかった夢を娘に投影する母親に無理やり子役として活躍させられた、筆者の幼い頃からの実体験を綴った本です。この本の中でジェネット・マッカーディ氏は摂食障害とうつ病を患う原因となった母親の行動に晒された幼年時代の日々を振り返って語ります。子役としてのオーディションの初体験はもとより、12歳で16歳の兄と母に冷たいシャワーを浴びさせられたり、生理が始まらず「子供」であることを保てるように極端な食事制限をしたりしたエピソードも含まれています。

★ ★ ★

現代社会は様々な惨状に溢れかえっています。銃乱射事件やらテロ攻撃やら若手スターの早すぎる死亡などが週替わりに次から次にニュースで取りあげられます。最近、SNS上の社会科学的な議論で「トラウマポルノ」という概念がよく浮上してきます。それは観客の反応を沸かせるために、誰かのトラウマになるような経験を嫌になるほど強調して利用する映画や本、テレビ番組などのことを言います。この本を読む前に、それこそが著者の目的だと思っており、読むのを避けていました。でもずっと周りの人からその本についてのいい評判を耳にしてばかりいてなので、結局読むことにしました。読んでみると、決して「トラウマポルノ」ではなかったのです。マッカーディ氏が自分の人生の最も暗い瞬間を何気なく読み手との秘密にするのは妙に面白いです。まるで筆者と読み手が共通のトラウマで縛られているようなので、彼女と共鳴するしかありません。そういう母親からの仕打ちを実際に耳にしたらびっくりするあまりに何かを言いたくなるかもしれません。かつて病的な好奇心を持っていた読み手が今、手をこまねいて筆者を手伝おうとせず虐待の経験を読むことによって虐待の共犯者になるかのように感じます。そういう罪悪感を感じて一喜一憂しながら読むのが、一生忘れられない読書経験になりました。

☺

回想録を読むのが初めてですが、人は過去の経験によって見える景色が違ってくるものなので、人によって本から得るものも違うと思います。私の視点から見れば、この本とその筆者はどのような環境にも適応し、意地でも克服してみせる不屈の人間精神を持っていることを証明しています。マッカーディ氏の本は、同じ経験のある人の癒しになったり、そういう経験を想像することさえが難しい人の視野を広げてあげたりすることができると思うので、どのような人でもこの本を読みがいがあると思います。





# 頭が良くなる 思考術



「人間という存在への愛、世界という不思議な存在への愛、それがなければ自分や他人をも愛することができないのではないだろうか。知は愛の一つだから、好きな人のことをもっともっと知りたくなるのだ。世界をもっとよく知ろうという愛も同じことなのだ。」

グレイス Grace



## 頭がよくなる思考術

白取春彦

ミリオンセラー「超訳 ニーチェの言葉」著者が古今東西の哲学書・啓蒙書のエッセンスを凝縮

売れ続けて13年  
**15万部突破!**  
日本経済新聞  
「ベストセラーの真因」  
でも紹介

あなたの思考が  
みるみるクリアになる!  
実践的  
アドバイス **55**

限定プレミアムカバーで登場

「自分を隅から隅までみよ」  
「心に染れるものに価値を置け」  
「幸せ」ではなく「満足」を求めよ

Discover  
KAWADA

### 読んだ理由:

友達に「言語に聞わず、言いたいことを上手く伝えられない。伝えてもごちゃごちゃしていて、通じない」と言ったら、「これ参考になるかも!」と言われ、貸してくれました。

### あらすじ:

西洋哲学を研究し、哲学や宗教、数学の明快な入門書の著者で知られる白取春彦さんの、思い煩うことなく毎日を生きるのに役立つ考え方を知ることができる一冊です。この本は大きく5つのテーマに分けられています。「答えを出せる」、「迷わない」、「楽しく生きる」、「クリアな」、「創造する」頭を作る。その5つのテーマの中でアイデアが更に55の項目に区切られています。その項目はそれぞれ見開き2ページ程度であり、読み切りやすい一冊です。また、項目の間に繋がりが感じられ、記載した順番をそのまま読んでもいいし、パラパラと目に止まるところで読んでもいいです。



### 概要:

タイトル	頭が良くなる思考術
著者	白取春彦
出版社	ディスカヴァー・トゥエンティワン
出版日	2005年10月14日
ジャンル	地政学、ノンフィクション





### 感想：

上手くいっていない時、失敗する度に挫けるようになることが多い私なんですけれども、この一冊で気分が完全に改善され、スッキリした気がします。あくまでも個人的な経験ですけれども、大人になってから自分の意見をはっきり言えなくなったようになった気がします。言いたいことを言おうとしても、(言語に関わらず)発言に曖昧さがまだ残ったり、完全に通じてなかったりする時が多かったです。そういった気持ちを回避できるため、この本をオススメします！

「タイトルが若干恥ずかしい」、「そもそも、こういう概念は陳腐だな」、「自己啓発本に過ぎない。全く変わらないじゃないか」等々思う方はきっといると思いますけれども、自分にとって白取氏が述べたアドバイスが明瞭で例文をはっきり挙げられているし、今すぐ導入できるアドバイスが記述されていて便利だと思います。自分の考えの整理の仕方や日記などの書き方に関して、この本を読む前と比べたら、雲泥の差が生じたと強く思います。自分自身のこと、自分の抱いている考え、自分の発言やその取られ方などをより良く意識できるようになったと思います。

この本を読み込んで、「頭がよくなる」を達成できたどうかは分かりませんが、無駄に悩むストレスをおさえられ、前向きかつ効率的に人生をおくるようにするために参考書になる一冊です。

### 好きな アドバイス：

「わたしたちの脳も、肉体が必要とする長い休憩よりも短い時間の休憩で復活するようにつくられているのである。」

「言葉を正しく知らないのなら、聞いたこと、読んだことを正確に理解できていないのは当たり前だし、正しく表現できてもない。それは同時に、世界をちゃんと理解していないことであり、また自分の意見が正しく伝わっていないことを意味するのである。」

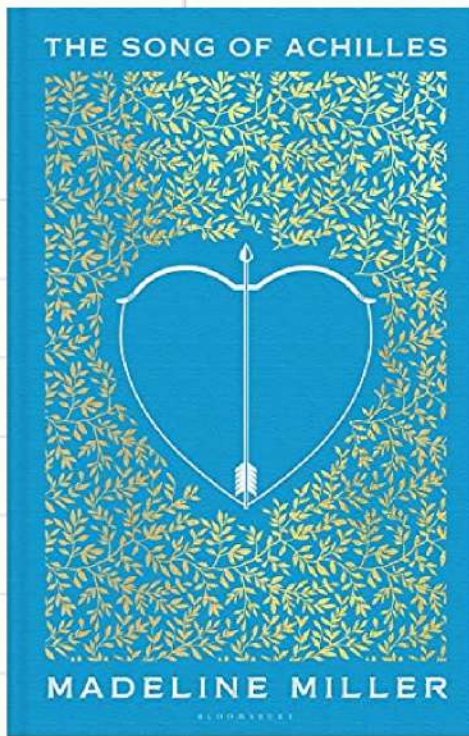
「なぜ、どうして」と問い、そのつどできるだけ誠実に答えるようにすれば、日本の精神風土は良質なものになるだろう。」

### どんな人に おすすめ：

私みたいに上手く打ち明けられない方、考え方の整理したい方、自己啓発したい方等にオススメです。

誰にでも役に立つと思いますが、特に社会人が使えそうな一冊だと思います。





# THE SONG OF Achilles

## 「アキレウスの歌」 マデリン・ミラー

古代の物語をもとに、タペストリーのように織り上げた恋愛の話。かつての王子で、殺人の刑罰で国外追放されたパトロクロスが、半神で金髪碧眼の美青年であるアキレウスの王宮に送られる

のが話の始めです。初対面で気が合わなかったものの、授業や食事などで一緒に過ごす時間が増えるにつれて仲良くなってきます。希代の英雄となることを予言されたアキレウスがケンタウロスのケイロンの下で修業する時にもパトロクロスが寄り添います。山の修業の時代でパトロクロスとアキレウスが青年となり、最初に純粋だった友情が強い絆となります。しかし、アキレウスは予言のとおりトロイア戦争で戦死しないように、母である女神テティスの勧めで、女装してスキュロス島の王宮に雲隠れします。数年後、ついにギリシアを片っ端から探したパトロクロスに見つけられ、アキレウスは戦死する最強戦士だという予言が当たるように、その伴侶のパトロクロスとトロイア戦争に参加するよう決心します。結末はぜひご自身の目で確かめてほしいのですが、悲劇なのでどうなるかは想像に難くないのではないかと思います。

現世でも来世でも離れたくなく、一緒にいると完全になるアキレウスとパトロクロスは運命の伴侶です。アキレウスはムキムキの体格と抜きでた才能、周りの人を惹きつける天性のカリスマ性を持っている輝く男らしさのかがみです。歴史に刻まれた伝説の英雄になる道に進んでいて、それが叶うように手段を選びませんが、パトロクロスは違います。アキレウスがの強みが自身の誇りに対して、パトロクロスは静かな思いやりが特徴です。この話の教訓は個人だけでなく、周りの人にも及ぼす圧迫的な期待の影響が避けられなかったり、人々が自分の運命を受け入れないといけなかったりすることだと思います。この本で特に気に入ったのはミラー氏がありのままの自分を受け入れずに隠すといった使い古された形ではない同性愛の関係を描くところです。読者は、登場人物の性的指向でなく、それよりもその個性や生活などに関連した喜びや問題に満ちている関係を他の関係と同じように体験することができるのです。

古代ギリシアや古代文学、恋愛小説などに興味を持っている方と不滅の愛の形が気になる方にお勧めします。





# 国境の南、 太陽の西

## 太陽の西 国境の南、

村上春樹



読んだ理由：

高校生の時、英語を教えてくれた先生と仲良くして、「ノルウェイの森」という小説を紹介してくれました。読んでみたら、村上春樹のことにとても興味が湧いてきました。現在に至るまで、村上氏の小説は全巻英語に翻訳されているので、英訳の方は全巻読みました。「国境の南、太陽の西」は初めて原語で読んだ日本語の「ちゃんとした」小説だからこそ、自分にとっては懐かしさがありますからです。

あらすじ：

この小説はある種のホラーのようなもので、主人公が過去に捨てたはずのものに追いかけるという話です。主人公は1951年の戦後の日本で生まれ育ったハジメと呼ばれる人で、周りの各家庭は子供が何人かいるの当たり前だったが、ハジメの家庭は例外で、一人っ子でした。だからこそ、省等感があり、ハジメは一線を引く感じがあると思われていました。島本という一人っ子の女の子がハジメの学校に転入してきて、ハジメは島本と仲良くなり、安息の地を見つけることができました。いつも2人で一緒に遊んだり、ジャズを聴いたりしました。単なる仲良しの良い友達になっただけだけではなく、二人の間には愛情も芽生えましたが、残念ながら、ハジメは引っ越しをして、島本と別れてしまったというスタートです。

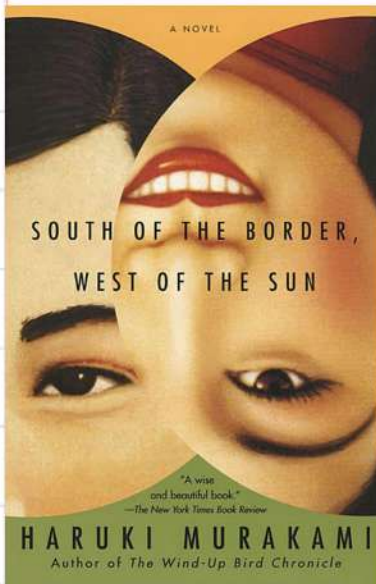
続いて、30代のハジメに視点が移ります。奥さんと二人の娘が居て、自分のジャズバーを営業しているため、恵まれて幸せに見える人生を送っています。しかし突然、島本とハジメが再会し、ハジメの日常生活や周りの関係は破壊されてしまいます。自分から見ると、この小説はハジメの中年期の心の葛藤を描いていて、ハジメは判断やモラルが曖昧になり、よく不倫などをするようになってしまいます。わざとではないのかもしれないけれど、自分のことや自分の決定を正当化して、結局周りに居る女性のことを傷つけまくります。

ハジメは過去のこと、つまり島本のこと忘れられずに生きています。夢中過ぎて、自分自身のこともおざなりにしてしまいます。それはハジメの心に穴を開けるような存在です。島本と別れて、その心の穴の中では暗闇が腐っています。話はハジメの決断が島本にするか奥さんのユキ子にするのかと悩んだままに終わり、なんとなく曖昧な読後感だけが残っています。答えは無く、問題ばかりが残っています。





概要：



タイトル	国境の南、太陽の西
著者	村上春樹
出版社	講談社
出版日	1992年10月5日
ジャンル	ロマンス

感想：

いつも通り村上春樹のトーンはものすごく鮮明で、すぐわかるものです。村上氏の作品でよくあるテーマ、すなわちロマンス、ジャズ、心中等々がバンバン出てくるから、ファンたちが好きな作品だろうと思います。幼年期に關するいくつかのかすかな記憶が交ざり、まるでそれがファンタジーのような小説になっています。

「もののあはれ」という文学や美的観念の一つであるテーマも強く感じられます。情緒を理解する心などを指す概念で、諸行無常の美しさを理解するということです。過去を恐れず、振り向かず前向きに進もうというメッセージを促しているでしょう。。

主人公は「不倫している最悪の人間だ」か「過去に怯えている可哀そうな人だ」という疑問がハルキストの中に沸いているけれど、本当にハジメが意図的に悪い人のか、不幸な境遇の犠牲者なのかはあくまでも判断できないと思います。ハジメの行為な犯罪ではないけれど、不倫は社会やモラル的に許されざるものです。ハジメは何回も愛されているのにその信頼を裏切るような行為をします。意図的ではないけれども、それでもなお悪いことを繰り返してしまいます。個人的に、わざわざ傷つけようかつかまいか、どちらにせよ傷つける結末となるのでしたら、どちらも悪いのです。哲学者のサルトルを引用しますが

「Even deciding not to choose is still a choice」  
(直訳：選択しないのも選択だ)」ということですが。

好きな名言：

「でもそのときの僕はわかっていなかったのだ。自分がいつか誰かを、とりかえしがつかないくらい深く傷つけるかもしれないということが。人間というのはある場合には、その人間が存在しているというだけで誰かを傷つけてしまうことになるのだ。」



「誰かの人生というのは結局のところその誰かの人生なんだ。君がその誰かにかわって責任を取るわけにはいかないんだよ。ここは砂漠みたいなところだし、俺たちはみんなそれに馴れていくしかないんだ。」

## **EDITORIAL**

**JOEL TEAHON**

ジョエル・ティホン

**GRACE WALSH**

グレイス・ウォルシュ

## **INTERNATIONAL AFFAIRS DIVISION HAMAMATSU CITY HALL**

053-457-2359

[kokusai@city.hamamatsu.shizuoka.jp](mailto:kokusai@city.hamamatsu.shizuoka.jp)

103-2 Motoshiro-cho,  
Naka-ku, Hamamatsu-shi

浜松市役所国際課  
浜松市中区元城町103-2

## **HAMAMATSU FOUNDATION FOR INTERNATIONAL COMMUNICATION AND EXCHANGE (HICE)**

053-458-2170

[hice05@hi-hice.jp](mailto:hice05@hi-hice.jp)

CREATE Hamamatsu 4F  
2-1 Hayauma-cho,  
Naka-ku, Hamamatsu-shi

浜松国際交流協会  
浜松市中区早馬町2-1 クリエイト浜松 4F

## **now online**

<https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/kokusai/cir.html>

